

氏名： 中村 弓子 (NAKAMURA Yumiko)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
学位： 修士 (東京大学 1973、アミアン大学 1972)
職名： 教授
専門分野： フランス文学・思想 (20 世紀)
E-mail： nakamura.yumiko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

ベルクソン／モーリヤック
Bergson / Mauriac

◆主要業績

総数 (2) 件

- ・発表：Morale du philosophe et 《Les Deux Sources de la Morale et de la Religion》
(ワークショップ「生の哲学の彼方」ーベルクソン『道徳と宗教の二源泉』再読)
共催：東京大学グローバル COE「死生学の展開と組織化」、ベルクソン『創造的進化』刊行百周年記念国際シンポジウム実行委員会
- ・論文：『蝮のからみあい』ー危機と恩寵
(お茶の水女子大学『人文科学研究』第4巻 2007年版)

◆研究内容 / Research Pursuits

主要業績1は、2007年10月、東京大学で開催された、ベルクソン『創造的進化』刊行百周年記念国際会議の一環として行われた『道徳と宗教の二源泉』についてのシンポジウムにおいての、フランス語で行った一時間の発表である。ベルクソンの生涯を通じて、哲学者個人の生き方としてのモラルの変遷をたどり、『道徳と宗教の二源泉』の宗教思想をその中に位置づけたものである。下記のシンポジウム記録に納められた。

《Au-dela de la philosophie de la vie》(東京大学人文科学大学院グローバル COE・DALS 発行)

主要業績2は、モーリヤックの最高傑作『蝮のからみあい』を、この小説家が決定的影響を受けたパスカルの思想の「気をまぎらわすこと」、「深淵」の2テーマを解釈格子として用いることにより分析したもの。

◆教育内容 / Educational Pursuits

2007年度は、通常の授業の他、博士後期課程の指導学生の以下の論文、発表の指導をした。

- 1：菊池博子 プルースト『失われた時を求めて』におけるギリシャ神話《フェトン》
(平成 19 年度『人間文化創成科学論叢』第 10 巻)
- 2：菊池博子 研究プロジェクト「ベルクソンとプルーストにおける記憶理論の比較研究」の指導（平成 20 年度の『人間文化創成科学論叢』に投稿する論文を準備中）
- 3：木下敏江「ガブリエル・ロワ《自伝的小説》における象徴的風景」（2007 年度日本フランス文学会関東支部会における発表 2008 年 3 月 学習院大学）

◆メッセージ

お茶の水女子大学は、きめの細かい少人数教育が行われ、学生の中に、伝統の勉強熱心でまじめな気質も、現代的味付けをされて生きています。じっくり学びたいと考えている人にお勧めします！